【　申命記　】
32：35　復讐と報復はわたしのもの。　それは彼らの足がよろめくときのため。
彼らのわざわいの日は近く、来たるべき時が速やかに来る。」
【　ローマ人への手紙　】
12：1　ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたにお勧めします。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそあなたがたにふさわしい礼拝です。

12：19　愛する者たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい。こう書かれているからです。「復讐はわたしのもの。わたしが報復する。」主はそう言われます。
12：20　次のようにも書かれています。
「もし、あなたの敵が飢えているなら食べさせ、乾いているなら飲ませよ。なぜなら、こうしてあなたは彼の頭上に燃える炭火を積むことになるからだ。」

【　ペテロの手紙　第二　】
3：9　主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

【　テサロニケ人への手紙　第一　】
12：6　神にとって正しいことは、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、
12：7　苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えることです。このことは、主イエスが、燃える炎の中に、力ある御使いたちとともに天から現れるときに起こります。

＊　特に断りがない限り、新改訳2017より使用

希望の光バプテスト教会
2021年 3月 14日（日）　礼拝メッセージノート

「　エレミヤ第二の暗殺計画　」

エレミヤ書講解-43　エレミヤ書　18：18-23他　小野寺 望　牧師

【　エレミヤ書　18章　】
18彼らは言った。「さあ、私たちは策をめぐらしてエレミヤを倒そう。祭司から律法が、知恵のある者から助言が、預言者からことばが滅び失せることはないはずだから。さあ、舌で彼を打ち、彼のすべてのことばに耳を傾けることがないようにしよう。」
19　「【主】よ、私に耳を傾け、　私と争う者の声を聞いてください。
20　善に悪をもって報いてよいでしょうか。
まことに彼らは、私のいのちを取ろうとして　穴を掘りました。
私が御前に立って、　彼らへのあなたの憤りをやめていただくために、
彼らについて良いことを語ったことを、　思い起こしてください。
21　それゆえ、彼らの子らを飢饉に渡し、　彼らを剣で殺してください。
妻たちは子を失い、また、やもめになり、　夫たちは虐殺されて死に、
若い男たちは戦いで剣に殺されますように。
22　突然、あなたが略奪隊に彼らを襲わせるとき、
彼らの家から悲鳴が聞こえます。　彼らは私を捕らえようとして穴を掘り、
私の足もとに罠を設けたからです。
23　【主】よ、あなたはみなご存じです。
私を殺そうとする彼らのはかりごとを。　どうか彼らの咎を赦さず、
彼らの罪を御前からぬぐい去らないでください。　彼らを御前で打ち倒し、
御怒りの時に、彼らに報いてください。」

（４ページへ続く）

◆ はじめに

｜自分の親切を仇で返されたときの対応

（1）人生の中で、そのようなことは時々あるやりとりへ対処する方法
（2）クリスチャンにとって、親切は証しであり、神の愛の行使である。
（3）それは、この世に神の義を示す機会である。

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

｜新約時代に神の義を求める方法

＊このメッセージは、神の義とキリストの恵みについて学ぶものである。

Ⅰ エレミヤを狙う敵の策略（18節）

1.敵は繰り返し命を狙われる

（1）「さあ、私たちは策をめぐらしてエレミヤを倒そう」（18節）
①以前の暗殺計画（11章）とは、別の事件である。
＊11章では、故郷アナトテの人々による暗殺計画が明らかになった。
②その時も、神の介入によって阻止された。
（2）徒党を組んで、神の計画に挑戦する呼びかけでもある。例：塔を築く呼びかけ（創11：3・4）

2.敵の主張とそれに従う人々

（1）「祭司から律法が、知恵のある者から助言が、預言者からことばが滅び失せることはないはずだから」
①自分たちの内には、祭司や知恵ある者、預言者が住んでいるのだから、エレミヤの言葉に耳を傾ける必要はない、という主張。
②これらの神のことばを取り次ぐ者たちは、堕落した偽りの奉仕者で、人々にとって都合の良い言葉を、神の啓示として語る者たちであった。
＊具体的には、祭司が律法を捻じ曲げて教え、知恵ある者は民が喜ぶように律法を曲解し、預言者たちは民が聞きたい言葉を語る。

（2）エレミヤは彼らとは違い、嫌われるような批判も恐れなかった。
①民に与えられた選択肢は、エレミヤに従うか、抹殺するかのいずれか。
（無視し続けるには難しいほどに、エレミヤの言葉は確信を突いていた）
②民は、目障りな存在の抹殺（後者）を選んだ。

Ⅱ エレミヤの祈り（19～23節）

1.神への報告

（1）「まことに彼らは、私のいのちを取ろうとして　穴を掘りました。」20節
①私の命を狙って、暗殺の準備をしているという意味（22節でも繰り返し）
（2）事を起こす前に、まず神への祈りを報告を欠かさない。

2.無実の主張

（1）「善に悪をもって報いてよいでしょうか…　私が御前に立って、彼らへのあなたの憤りをやめていただくために、彼らについて良いことを語ったことを、思い起こしてください」20節
①自分は民に対して善しか行わなかった。神の義への訴えかけ。
②エレミヤの内にある願いは、民の幸福しかない。
＊それは神の律法（モーセ契約）に従うという信仰表現によってのみ可能。

3.神の義が示されることへの求め

（1）「それゆえ、彼らの子らを飢饉に渡し、彼らを剣で殺してください」21節
①激しいことばの根底にある動機は神の義を求める願い。
これは個人的復讐心の表れでなく、神の敵が滅びることを願う祈り。
②義なる神は、すべてをご存じであられる（23節）
＊旧約聖書は個人的復讐を支持しない。申32：35（レビ19：18も参照）
＊唯一、正しく報い、復讐することができるお方。
（2）壊される器イスラエル
①神のことば（13～17節）とエレミヤの願いのことばが一致した。
＊イスラエルの不従順の罪は、異邦人の中にも、自然法則の中にもないもの。
②神に敵対する者の結末は滅びである。
③イスラエルという神の器は、捕囚によって壊され、矯正される。

◆まとめ：新約時代に神の義を表す方法

1.新約時代のより高い基準
①いわゆる愛による復讐：「彼の頭に燃える炭火を積む」ロマ12：20
＊愛による行為によって、敵であった人さえも恥を感じるようになる。
②愛の行為によって悔い改めへに導くことが、〝復讐〟である。
＊厳しい直球のメッセージや、教会内での裁きや矯正を否定するものではない。
＊法律に基づく犯罪者への対処（法の秩序）を否定するものではない。
＊クリスチャンは聖霊の導きと知恵によって、あらゆる方法を用い得る。
大切なのは、その根底にある動機がいつも「愛」あれ、という点。
2.神の忍耐とあわれみを軽んじるな　2ペテロ3：9、2テサ1：6～7
3.愛の器として生きるクリスチャンの動機もまた、「神のあわれみ」である。
①ロマ書の愛の勧告の基は、ロマ12：1（土台は「神のあわれみ」）
②愛に基づく心の平和をいただいて、福音伝道にまい進しよう。